

知的財産事例

田中食品株式会社

日本初の「ふりかけ」を生み出した業界のパイオニア 人々の健康に寄り添う“完全食”を目指し、海外にも可能性を広げる

事業内容

1901年（明治34年）創業、1928年（昭和3年）会社設立
食品製造販売業（主にふりかけ）

知的財産権と内容

特許第7349764号	シート状食品およびフレーク状食品
特許第7300234号	シート状食品
商標第4861904号	旅行の友
商標第6221303号	巻くふりかけ
商標第6155702号	悪魔のふりかけ

他 特許権3件、商標権42件

(2025年7月現在)

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



代表取締役社長 田中 孝幸さん

はじめは軍の要請をきっかけに開発 日本初の「ふりかけ」の先駆者に

広島・呉で創業し、当初は漬物や味噌の製造から開始した当社。戦時中に軍から「持ち運びが容易で栄養価が高く、日持ちのする」食品の開発を求められ、1904年（明治37年）頃、日本初のふりかけである『旅行の友』を開発・製造した。創業者を支えた妻の名「トモ」と、旅行の必需品として広く伝わってほしい、との想いを込めて名付けたという。「ふりかけ」という名称も当社が使い始めた。旅行の「旅（りょ）」は「軍隊」という意味もあり、軍からの要請を受けて開発したことも名前の由来の1つである。また、発売から人気を博し定番化した後も、「弁当箱にふりかけが張り付く」という消費者からの声に誠実に寄り添い、1975年（昭和50年）には日本初の袋タイプのふりかけ（ミニパック）も発売。2025年に創業125年、『旅行の友』の開発・製造から121年目を迎えた当社だが、2023年には海外需要を視野に、看板商品をベースとした『世界の友』を新たに売り出すなど、常にふりかけ業界のパイオニアとして精力的に商品やブランドの可能性を広げ続けている。

初めての知財取得から受け継がれるノウハウ 『巻くふりかけ』でも特許や商標が活かされる

当社の初めての知財取得は1988年、「海藻サラダ（紅藻類海藻）」関連の加工技術だった。開発者は今も現

役で技術顧問を務め、当時から「世の中にないものを作りたい」という想いを商品開発に注いでくれている。これまでのノウハウは現在も受け継がれており、技術者が主体となって開発・試作を行い、特許事務所と相談するという体制が整っている。審査で拒絶を受けた場合の対応も社内であらかじめ協議し、その都度再調整して進めているそうだ。また、『旅行の友』に次ぐ代表商品『巻くふりかけ』に関わる技術にも注目したい。これは当時ほとんど例がなかった「シート食品」の構造特許だ。わかめを板状の乾燥品にするところから試作を重ねたが、多くの壁もあった。素材を活かした製法を採用するも、温度や湿度の調整次第で成形時に穴が開いてしまうなど、何度も失敗を繰り返した。それでも諦めず試行錯誤し、20年以上の歳月をかけ開発に成功、特許取得に至った。素材をそのままシート状に仕上げつつも、極薄で柔軟性がある点が特に評価されている。『巻くふりかけ』は商標登録も行い、SNSで展開する際、他社との差別化に役立っているという。メディアに取り上げられる機会も増え、2025年1月には広島市が認定する「ザ・広島ブランド」に認定されるなど、ますます期待が高まる商品だ。

自社の技術・ノウハウを守るため 秘密保持契約の締結を徹底

特許は防衛の意味でも大きな存在となっている。以前他社から類似品が出たこともあったが、特許や商標に

より、取引先や消費者へ技術力を証明できたことで埋もれずにポジションを確立できた。こうした経験から知財を、商品を守る“盾”として適切に活用するため、契約時は秘密保持契約（NDA）の締結を徹底。社内では情報リテラシー向上の働きかけを行うなど、営業機密等の管理にも気を配っている。知財に対する地道な活動から、2014年には日本弁理士会主催の知的財産活用表彰において、営業秘密管理部門の「知的財産活用賞」を受賞した。今後は健康面での貢献に向け、カルシウム摂取や血圧・血糖値対策に関する、健康志向の高い商品開発を検討している。世代を問わず「タナカのふりかけがあって良かった」と思ってもらえるよう、知財戦略も踏まえ積極的に新たなアイデアを生み出していきたいという。

知財取得・活用における苦悩



知財の申請は弁理士等の支援により特に苦労はなかったが、何より壁となったのは「出願のタイミング」だった。

商品開発で試行錯誤を重ねている間に、他社に商標を取得されてしまうケースもあり、出願のスピード感や時機の重要性を強く意識したという。また、海外展開においても模倣品の出回りを防ぐため、JETROや中小企業基盤整備機構、商工会議所などと連携し、国際特許の取得に取り組んでいく方針だ。

知財取得を目指す経営者へのメッセージ



「特許や商標は会社の“努力の結晶”であり、自社の顔を守る“資産”である。企業ブランドの信頼構築や、商品価値の向上に欠かせないものだと考えている」と田中社長は話す。「特に商標は早めに取得すべき。中小企業でも十分に挑戦できるので、まずは弁理士をはじめ専門家に相談してみることが大切だ」と続けた。また、「失敗しても諦めずにやり続ける姿勢も重要である。当社も20年間の失敗の繰り返しが貴重な経験となり、今に繋がっていると思う」とも併せて語った。



日本初のふりかけとしてロングセラーとなっている『旅行の友』＆『ミニパック』

『巻くふりかけ』のおむすびは直営店である『旅行の友本舗』で取り扱っている

知的財産活用のポイント

老舗でありながら「革新」を目指す姿勢 ITも駆使し社内での意識・情報共有に努める

田中社長は特許を「消費者へ安心感を与える一方、BtoBでも独自性をアピールできるもの」と考え、技術や商品を保護しつつ、信頼性やブランド力を高める目的で積極的な知財取得を行っている。新たなアイデア（知財）を生み出し続けることで「常に

革新を起こす企業」とのイメージにも繋がるという。こうした新たな開発・革新の実現に向けては、こまめな情報共有が重要であるとし、当社の全事業所・工場を毎朝Zoomで繋ぎ、ミーティングを実施するなど、現場と経営陣の意識を統一するための取り組みも行っているそうだ。ふりかけ業界のパイオニアでありながらも、初心を忘れず進化を止めない姿勢が、知財の活用・戦略に繋がった。

COMPANY DATA

取材：2025年7月

企業名：田中食品株式会社 所在地：広島県広島市西区東観音町3-22 電話番号：082-232-1331

URL：<https://www.tanaka-foods.co.jp/> 創業：1901年 資本金：1000万円 従業員：142名

